

令和 5 年度
第 3 回学校運営協議会兼
第 3 回学校関係者評価委員会

第 3 回学校関係者評価委員会資料
学校評価アンケート結果より



令和 6 年 3 月 5 日
生駒市立生駒北中学校

中学生 生徒アンケート(オンライン)

自分のことを思い出して、答えましょう。当てはまる番号に○をつけましょう。

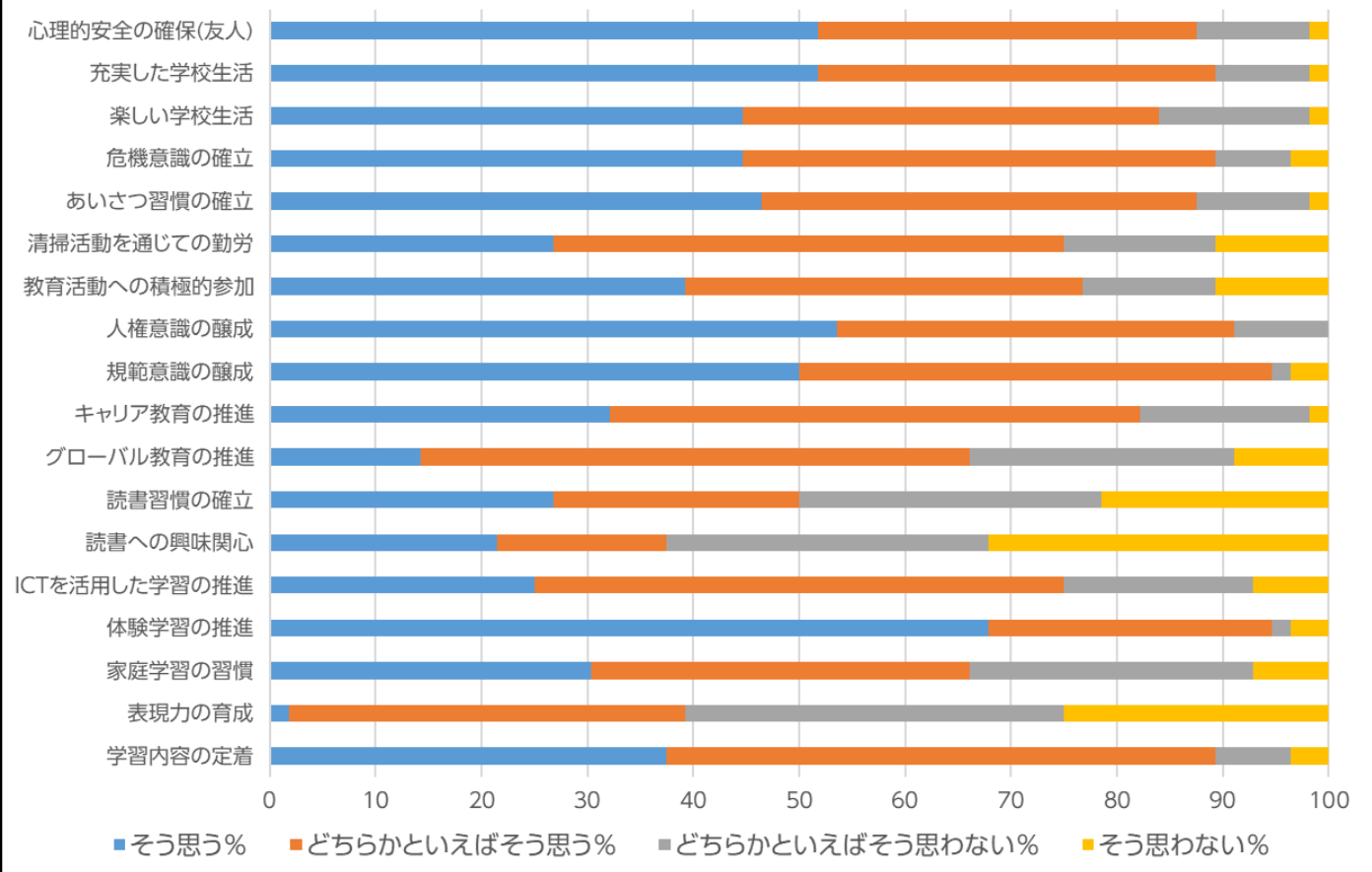
年 組 名前 ()

		思い出すこと	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
学習	1-①	授業内容を理解している。	4	3	2	1
	1-②	授業中に進んで発表した。	4	3	2	1
	1-③	家庭学習をしている。	4	3	2	1
	1-④	体験学習（茶筌づくり体験・筆づくり体験・職場体験・こども園との交流学习等）の時間は楽しい。	4	3	2	1
	1-⑤	プロジェクターやクロムブックなどのICT機器を使用した授業を受けることで、学習への興味が深まった。	4	3	2	1
	1-⑥	積極的に図書室を利用している。	4	3	2	1
	1-⑦	よく読書をしている。	4	3	2	1
	1-⑧	教科の学習を通じて、他国や他の地域のことについて考えた。	4	3	2	1
	1-⑨	学校生活を通じて、将来の進路や生き方について考えた。	4	3	2	1
生活	2-①	学校生活を通じて、社会のルールや自己責任について学んだ。	4	3	2	1
	2-②	学校生活を通じて、命の大切さや人権について学んだ。	4	3	2	1
	2-③	生徒会活動や委員会活動、部活動に積極的に取り組んでいる。	4	3	2	1
	2-④	清掃活動に熱心に取り組んでいる。	4	3	2	1
	2-⑤	学校や地域で、誰に対してもよくあいさつをしている。	4	3	2	1
健康安全	3-①	安全面（防犯や災害）に気をつけて生活している。	4	3	2	1
学校	4-①	学校は楽しい。	4	3	2	1
	4-②	学校行事に意欲的に参加している。	4	3	2	1
	4-③	自分の悩みを相談できる友人がいる。	4	3	2	1
	4-④	自分の悩みや意見を聞いてくれる先生がいる。	4	3	2	1

R5年度末 全校生徒アンケート

分類	番号	全校 項目	そう思う%	どちらか といえば そう 思う%	どちらか といえば そう 思わない%	そう 思わ ない%
学習	1-①	学習内容の定着	38	52	7	4
	1-②	表現力の育成	2	38	36	25
	1-③	家庭学習の習慣	30	36	27	7
	1-④	体験学習の推進	68	27	2	4
	1-⑤	ICTを活用した学習の推進	25	50	18	7
	1-⑥	読書への興味関心	21	16	30	32
	1-⑦	読書習慣の確立	27	23	29	21
	1-⑧	グローバル教育の推進	14	52	25	9
	1-⑨	キャリア教育の推進	32	50	16	2
生活	2-①	規範意識の醸成	50	45	2	4
	2-②	人権意識の醸成	54	38	9	0
	2-③	教育活動への積極的参加	39	38	13	11
	2-④	清掃活動を通じての勤労	27	48	14	11
	2-⑤	あいさつ習慣の確立	46	41	11	2
安健全康	3-①	危機意識の確立	45	45	7	4
学校	4-①	楽しい学校生活	45	39	14	2
	4-②	充実した学校生活	52	38	9	2
	4-③	心理的安全の確保(友人)	52	36	11	2
	4-④	心理的安全の確保(教員)	41	36	21	2

R5年度末 全校生徒アンケート



生徒アンケートの考察

R5年度末 各学年及び全校生徒アンケート

分類	番号	項目	肯定的意見(%)				否定的意見(%)			
			1年	2年	3年	全校	1年	2年	3年	全校
学習	1-①	学習内容の定着	85	95	87	89	15	5	13	11
	1-②	表現力の育成	46	40	35	39	54	60	65	61
	1-③	家庭学習の習慣	62	50	83	66	38	50	17	34
	1-④	体験学習の推進	92	100	91	95	8	0	9	5
	1-⑤	ICTを活用した学習の推進	85	85	61	75	15	15	39	25
	1-⑥	読書への興味関心	54	30	35	38	46	70	65	63
	1-⑦	読書習慣の確立	69	40	48	50	31	60	52	50
	1-⑧	グローバル教育の推進	69	70	61	66	31	30	39	34
	1-⑨	キャリア教育の推進	92	75	83	82	8	25	17	18
生活	2-①	規範意識の醸成	100	95	91	95	0	5	9	5
	2-②	人権意識の醸成	100	85	91	91	0	15	9	9
	2-③	教育活動への積極的参加	100	80	61	77	0	20	39	23
	2-④	清掃活動を通じての勤労	85	80	65	75	15	20	35	25
	2-⑤	あいさつ習慣の確立	92	80	91	88	8	20	9	13
安康	3-①	危機意識の確立	100	90	83	89	0	10	17	11
学校	4-①	楽しい学校生活	92	70	91	84	8	30	9	16
	4-②	充実した学校生活	92	90	87	89	8	10	13	11
	4-③	心理的安全の確保(友人)	85	90	87	88	15	10	13	13
	4-④	心理的安全の確保(教員)	85	80	70	77	15	20	30	23
肯定的意見が85%以上			肯定的意見90~100%				否定的意見41%以上			
否定的意見が31%以上			肯定的意見80~89%				否定的意見31%以上			
							否定的意見21~30%			

・今回の年度末アンケートで生徒の肯定的意見が比較的に高い割合だった項目は、「学習内容の定着」「体験学習の推進」「規範意識の醸成」「人権意識の醸成」「あいさつ習慣の確立」「危機意識の確立」「充実した学校生活」「心理的安全の確保(友人)」の8つで、いずれも 85%以上の生徒が肯定的な評価をしている。特に「体験学習の推進」「規範意識の醸成」「人権意識の醸成」の3項目は、9割以上の生徒が肯定的な評価をしており、多くの学年で高い達成率であった。中でも「体験学習の推進」「規範意識の醸成」は、それぞれ95%の達成率であり、今年度の教育活動において十分達成できたといえる。特に規範意識の獲得は、集団活動の場である学校生活において必要不可欠であり、落ち着いた学習をするうえでも大切な要素である。このことから本校の生徒は、多くの生徒が落ち着いた学校生活を送っているということがいえ、今年度の教育活動においては大きな問題は無く、概ね安定した教育活動が展開されていたといえる。来年度の教育活動においても、これらの点を大事にして教育活動を進めていきたい。「学習内容の定着」「あいさつ習慣の確立」「危機意識の確立」「充実した学校生活」「心理的安全の確保(友人)」の5項目は、それぞれが 89%、88%、89%、89%、88%であり、今年度の教育活動において目標を達成したように思われる。しかしながら、それぞれの項目において学年間で達成率に開きが見られる。来年度の教育活動においては、全ての学年で安定した達成がなされるように取組の強化を図っていきたい。

・肯定的意見の割合が高い項目が一番多い学年は1年生で、19項目中14項目で肯定的な評価をしている。次いで肯定的な回答が多い学年は2年生で、19項目中12項目で肯定的な評価をしている。3年生は、19項目中11項目で肯定的な評価をしており、学年が小さいほど肯定的意見の割合が高い項目が多く、学年が上がるにつれてその数が減っていることがわかる。これは、学年が上がるにつれて生徒が自分自身を俯瞰できるようになり、評価も厳しくなっているということが原因の1つとして考えられ、生徒の成長とも捉えられる。しかし、今よりも楽しく充実した学校生活を送るために、また、生徒が自身を認められるといった自己肯定感の獲得のために、各項目で肯定評価が多いことがよいのは言うまでもないことである。来年度の教育活動において、低評価であった項目に重点的に取り組み、改善を図っていききたい。

・否定的意見が高い割合だった項目は、「表現力の育成」「家庭学習の習慣」「読書への興味関心」「読書習慣の確立」「グローバル教育の推進」の5項目で、それぞれ61%、34%、63%、50%、34%の生徒が否定的な回答をしていた。「家庭学習の習慣」は、3年生は達成率が83%であるのに対し、1年生では62%、2年生では50%の達成率となっている。3年生は、卒業後の進路が現実味を帯びてくことや、アンケートを実施した時期が受検を控えた1月ということもあり、高い達成率になったと考えられる。しかし、進路決定が自己実現を達成する手段と捉えるならば、3年生になってから家庭学習を習慣化するのではなく、1、2年生の時からしておくべきである。また、適切な時間で家庭学習を行うという習慣を身に付けておくことは、生徒が上級学校へ進学した際に必要不可欠なことである。キャリア教育のますますの充実を図って、生徒に将来の展望を意識させることで意欲付けを行い、家庭学習をすることの意味付けを図っていききたい。また、懇談等を通じて、家庭にも家庭学習の習慣化の重要性を啓発していききたい。「読書への興味関心」「読書習慣の確立」は、いずれも否定的意見の割合が5割以上であり、非常に低い達成率となった。アンケートの実施時期から、3年生の達成率が低いことはある程度予想することはできるが、1、2年生の達成率が低いことについては改善が必要であると思われる。学校では、学校司書が図書館だよりを発行して読書への意欲付けを図ったり、校内ビブリオバトルの取組を行ったり、図書委員がお薦めの本が入ったお楽しみ袋を用意するなどの取組を行ったりしている。読書は、想像力や思考力、判断力の育成に有効であり、その習慣化は是非とも図りたいところである。家庭にも協力を仰いで、生徒の読書習慣の確立を目指していききたい。

教員アンケート

R5年度 学校評価（北中） 自己評価

名前（ ）

評価指数 4) 当てはまる 3) 概ね当てはまる 2) あまり当てはまらない 1) 当てはまらない

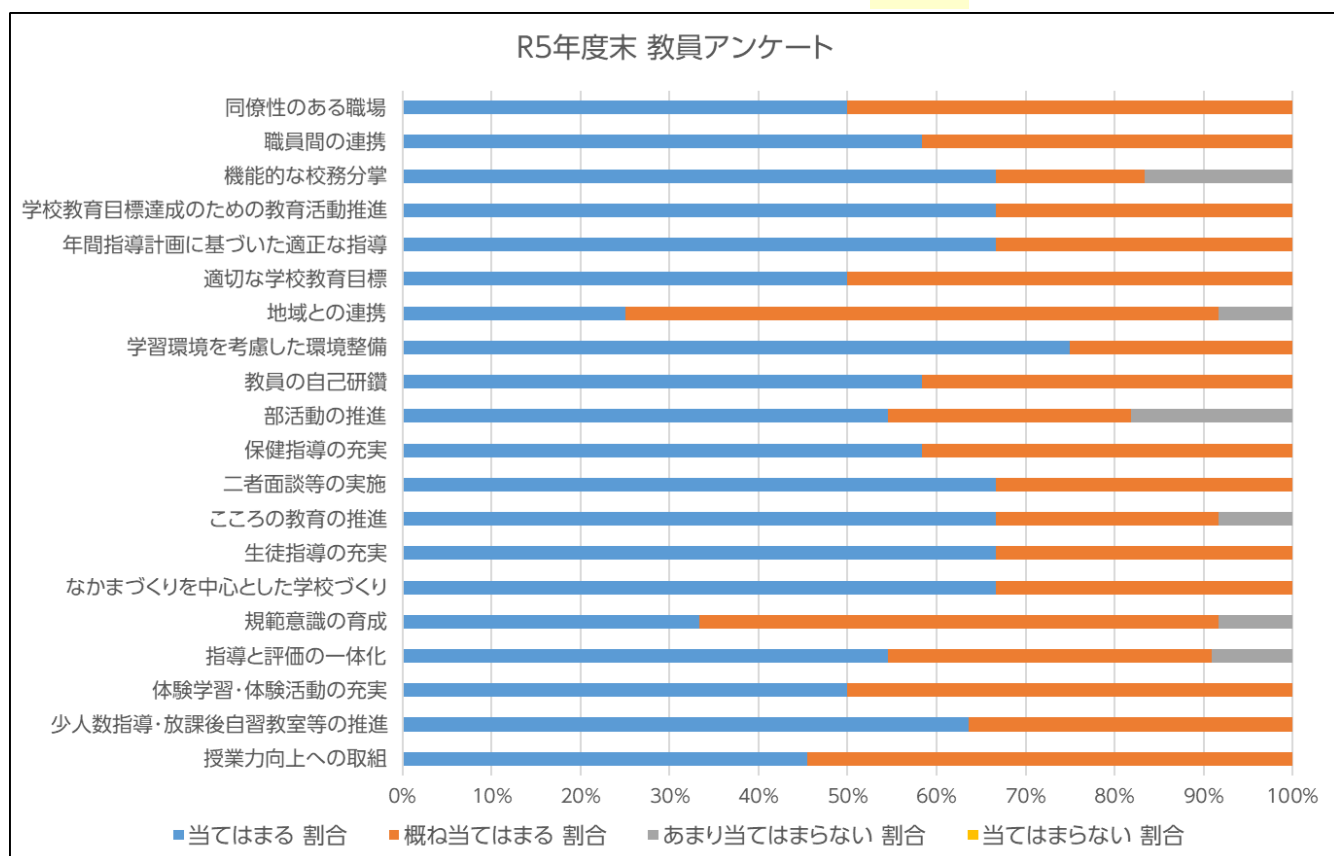
重点目標・重点課題			達成目標	項目	評価	備考 (改善点等)
県	生駒市	本校				
知： 確かな学力の育成	①課題の発見や解決に向けた主体的・対話的で深い学びの実現 ②地域と連携した協働活動の充実 ③グローバル時代に対応した英語教育の推進 ⑦読書活動の充実	知： 自ら学ぶ意欲と態度を推進する	基礎・基本的な学習内容の定着を図り、生徒の興味・関心を引き出す授業を展開している。 【授業力向上への取り組み】	努力目標		
			生徒の実態を的確に把握し、可能性を伸ばす指導に努めている。 【少人数指導・放課後自習教室等の推進】			
			体験的な学習・問題解決的な学習を取り入れ、主体的な学習活動を通して自ら学ぶ意欲と態度を育成している。 【体験学習・体験活動の充実】			
学習過程での評価を通して、生徒の学習状況を把握し、その成果を学習指導に生かしている。 【指導と評価の一体化】						
徳： 豊かな人間性の育成	④規範意識や情報モラルについて主体的に考える道徳教育の充実 ⑤自尊感情の醸成 ⑥全ての生徒の心の居場所づくり ⑧幼稚園・保育園・子ども園・小学校との連携	徳： 豊かな心を育てる道徳教育を推進する	教育活動全般を通して、実践力の伴う道徳教育を展開している。 【規範意識の育成】			
			あらゆる差別を許さない人権教育を展開している。 【なまかづくりを中心とした学校づくり】			
			望ましい生活習慣を身につけさせている。 【生徒指導の充実】			
			心の教育を推進している。			
			カウンセリングマインドを基本に、未然防止の生徒指導に努めている。 【二者面談等の実施】			
体： たくましい心身の育成	⑨健康でたくましい体づくり	体： 健康な体とたくましい心身の育成を推進する	生徒の健康の現状を把握し、疾病の予防と健康で安全な生活を営む習慣や態度を培っている。 【保健指導の充実】			
			体育の授業だけでなく、進んで運動に親しみ、スポーツの楽しさと併せて体力の向上に努めている。 【部活動の推進】			
学校評価	学校評価	生徒ひとりひとりに研鑽に励む	教育専門職としての自覚のもと、絶えず自己研修に努めている。	基本 教育 方針 全般		
			学校安全管理と環境美化に努め、美しい学校づくりに努めている。			
			地域から信頼される開かれた学校づくりに努めている。			
			学校教育目標は、生徒や地域の実態を踏まえたものとなっている。	職員 組織		
			学校教育目標の達成に向けて、教育課程が編成され年間指導計画に基づいて指導が行われている。			
			自ら考え行動し、未来を切り開く生徒の育成を目指した教育を推進している。			
校務分掌は適材適所の配置のもと、機能的に運営できている。	職員 組織					
職員間で意思疎通を図り、十分な連携がとられている。						
日々の教育活動における問題や悩み等について、気軽に相談できる雰囲気である。						

R5年度末 教員アンケート

分類	番号	全教員	当てはまる(%)	概ね当てはまる(%)	あまり当てはまらない(%)	当てはまらない(%)	肯定意見(%)	否定意見(%)
		項目						
学習(知)	1-①	授業力向上への取組	45	55	0	0	100	0
	1-②	少人数指導・放課後自習教室等の推進	64	36	0	0	100	0
	1-③	体験学習・体験活動の充実	50	50	0	0	100	0
	1-④	指導と評価の一体化	55	36	9	0	91	9
生活(徳)	2-①	規範意識の育成	33	58	8	0	92	8
	2-②	なかまづくりを中心とした学校づくり	67	33	0	0	100	0
	2-③	生徒指導の充実	67	33	0	0	100	0
	2-④	こころの教育の推進	67	25	8	0	92	8
	2-⑤	二者面談等の実施	67	33	0	0	100	0
安全(体)	3-①	保健指導の充実	58	42	0	0	100	0
	3-②	部活動の推進	55	27	18	0	82	18
研(生)と 鑽(徒)の に(ひ)と 励(む)め に(ひ)	4-①	教員の自己研鑽	58	42	0	0	100	0
	4-②	学習環境を考慮した環境整備	75	25	0	0	100	0
	4-③	地域との連携	25	67	8	0	92	8
基本 教育 方針 全般	5-③	適切な学校教育目標	50	50	0	0	100	0
	5-③	年間指導計画に基づいた適正な指導	67	33	0	0	100	0
	5-③	学校教育目標達成のための教育活動推進	67	33	0	0	100	0
職 員 組 織	6-①	機能的な校務分掌	67	17	17	0	83	17
	6-②	職員間の連携	58	42	0	0	100	0
	6-③	同僚性のある職場	50	50	0	0	100	0

肯定的意見の割合が85以上
 否定的意見の割合が31以上

肯定的意見の割合が90～100
 肯定的意見の割合が80以上
 否定的意見の割合が41以上
 否定的意見の割合が31～40
 否定的意見の割合が21～30



教員アンケートの考察

・教員は、今回のアンケートで、すべての項目において肯定的意見の割合が高く、「部活動の推進」「機能的な校務分掌」の2項目以外は全て肯定的意見の割合が90%以上であった。その内、「授業力向上への取組」「少人数指導・放課後自習教室等の推進」「体験学習・体験活動の充実」「なかまづくりを中心とした学校づくり」「生徒指導の充実」「二者面談等の実施」「保健指導の充実」「教員の自己研鑽」「学習環境を考慮した環境整備」「適切な学校教育目標」「年間指導計画に基づいた適正な指導」「学校教育目標達成のための教育活動推進」「職員間の連携」「同僚性のある職場」の14項目で、すべての教員が肯定的評価をしている。20項目中14項目で100%の肯定的評価をしていることから、教員は本校の教育活動において、高い達成感を感じており、使命感とともに自信を持って教育活動に臨んでいるといえる。このことから、本年度の教育活動において、教育目標は概ね達成されたと考えられる。来年度も今年度と同じ結果が得られるよう、教育活動に邁進していきたい。

中学校保護者学校教育アンケート(オンライン)

当てはまる番号に○をつけてください。

お子さんの学年 () 出席番号 ()

	番号	評価の視点	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
学習	1	学校は、わかりやすい授業づくりに努めている。	4	3	2	1
	2	子どもは、家庭でもよく学習をしている。	4	3	2	1
	3	体験学習（茶筌作り・筆作り・職場体験・こども園との交流学习等）が充実している。	4	3	2	1
	4	子どもは、ICT機器を活用した学習を進めることで、学習内容の理解を進めている。	4	3	2	1
	5	子どもは、よく読書をしている。	4	3	2	1
	6	学校は、子どもたちに将来の進路や生き方について考えさせようとしている。	4	3	2	1
生活	7	学校は、子どもの間違った行動を適切に指導するなど、社会のルールを守る態度や規範意識を育てている。	4	3	2	1
	8	学校は、人権や命を大切にする取組を行っている。	4	3	2	1
	9	子どもは、生徒会活動や委員会活動、学校行事や部活動に積極的に参加している。	4	3	2	1
	10	学校は、環境美化や環境整備に努めている。	4	3	2	1
	11	子どものスマホやインターネット等の使用について、家庭のルールを設けている。	4	3	2	1
健康安全	12	学校は、子どもの安全指導に努めている。	4	3	2	1
学校	13	子どもは、学校に行くのが楽しいと言っている。	4	3	2	1
	14	学校は、学校行事等で充実した活動を行っている。	4	3	2	1
	15	学校は、子どもの悩みや相談について適切に関わってくれる。	4	3	2	1
	16	子どもは、学校での出来事等の話をよくする。	4	3	2	1
	17	学校は、教育方針等を分かりやすく伝えている。	4	3	2	1
	18	学校は、家庭との連絡をきめ細かく行っている。	4	3	2	1

保護者アンケートの考察

R5年度末 全保護者アンケート

全保護者			そう思う%	どちらかといえばそう思う(%)	どちらかといえばそう思わない(%)	そう思わない%	肯定意見(%)	否定意見(%)
分類	番号	項目						
学 習	1-①	学習内容の定着	18	63	15	5	80	20
	1-③	家庭学習の習慣	10	33	55	3	43	58
	1-④	体験学習の推進	40	53	5	3	93	8
	1-⑤	ICTを活用した学習の推進	18	63	18	3	80	20
	1-⑦	読書習慣の確立	28	15	28	30	43	58
	1-⑨	キャリア教育の推進	8	60	28	5	68	33
生 活	2-①	規範意識の醸成	18	78	3	3	95	5
	2-②	人権意識の醸成	23	68	5	5	90	10
	2-③	教育活動への積極的参加	35	48	13	5	83	18
	2-④	学習環境を考慮した環境整備	38	55	5	3	93	8
	2-⑥	家庭における情報モラルの醸成	43	50	8	0	93	8
安 全 康	3-①	危機意識の確立	25	68	5	3	93	8
学 校	4-①	楽しい学校生活	25	58	18	0	83	18
	4-②	充実した学校生活	18	73	8	3	90	10
	4-④	心理的安全の確保	25	60	13	3	85	15
	4-⑤	親近感のある学校	28	43	25	5	70	30
	4-⑥	家庭への情報発信	8	70	20	3	78	23
	4-⑦	家庭との連携	20	60	18	3	80	20

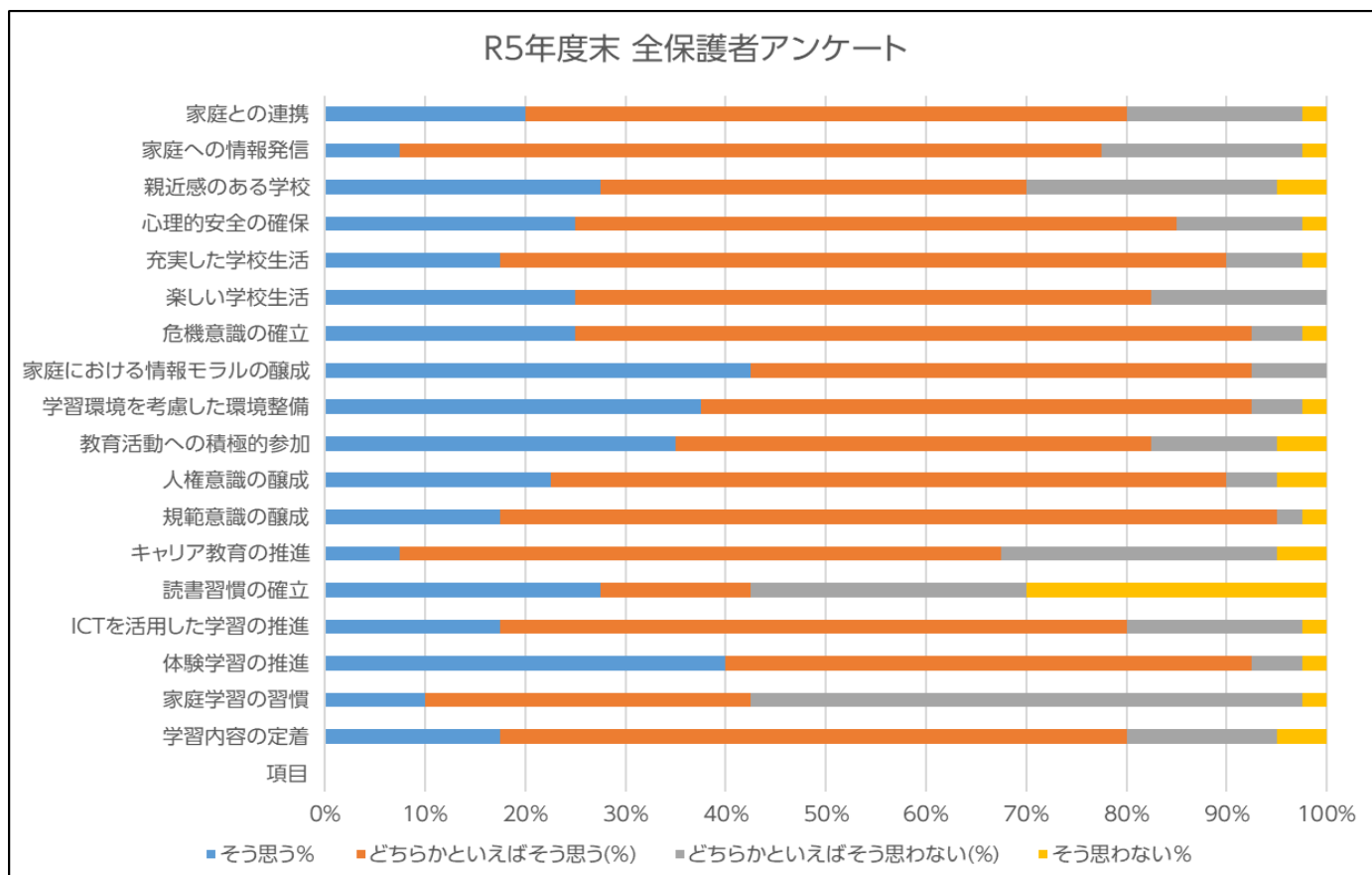
肯定的意見の割合が80以上
否定的意見の割合が31以上

肯定的意見の割合が90~100
肯定的意見の割合が80~89
否定的意見の割合が41以上
否定的意見の割合が31~40
否定的意見の割合が21~30

・今回の保護者アンケートで肯定的意見が高い割合だった項目は、「体験学習の推進」「規範意識の醸成」「人権意識の醸成」「学習環境を考慮した環境整備」「家庭における情報モラルの醸成」「危機意識の確立」「充実した学校生活」の7項目であった。いずれの項目も90%以上の保護者が肯定的な評価をしており、これらの項目については、今年度、十分達成が図られたと考えられる。次いで、肯定的意見が80%以上だった項目は、「学習内容の定着」「ICTを活用した学習の推進」「教育活動への積極的参加」「楽しい学校生活」「心理的安全の確保」「家庭との連携」の6項目である。これらの項目についても、ほぼ目標は達成されたものと思われる。分野別にみると、生活と健康・安全の分野はすべて高い評価であり、生徒指導をはじめとした教育活動について、高い評価をしてもらっていると思われる。学校の分野では、肯定的意見が70%台の項目があるものの、突出して肯定的意見の割合が低い項目はなく、ある一定の達成は見られたのではないかと考える。「楽しい学校生活」「充実した学校生活」「心理的安全の確保」「家

「家庭との連携」の4項目については8割以上の保護者が肯定評価をしており、今年度の学校運営においては概ね達成が図られたのではないかとと思われる。教育方針等を分かりやすく伝える「家庭への情報発信」については、学校だより等を通じて丁寧に周知していきたい。学習の分野では、「学習内容の定着」「ICTを活用した学習の推進」が80%の肯定的評価であり、これらについてはほぼ達成されたと考える。また、「体験学習の推進」については肯定的意見が93%であり、十分に達成されたと考えられる。今後も、生徒の生きる力を育むことを目的とした学力向上を目指し、これらの取組の充実を図っていきたい。

・否定的意見が高い割合だった項目は、「家庭学習の習慣」「読書習慣の確立」「キャリア教育の推進」の3項目であった。「家庭学習の習慣」「読書習慣の確立」の2項目については、肯定的意見が5割を満たさず、58%の保護者が否定的に回答している。その内、「読書習慣の確立」については、生徒、保護者ともに5割以上が否定的に評価しており、家庭において読書をする機会が少ない様子が浮き彫りとなった。読書は、想像力や思考力、判断力の育成に有効であり、その習慣化は是非とも図りたいところである。学校では、学校司書が図書館だよりを発行して読書への意欲付けを図ったり、図書委員がお薦めの本が入ったお楽しみ袋を用意するなどの取組を行ったりしている。また、国語科の学習を通じて、校内ビブリオバトルの取組も行っている。今後、今までの取組の継続、強化を図るとともに、家庭にも協力を仰いで生徒の読書習慣の確立を目指していきたい。「家庭学習の習慣」については、生徒、保護者ともに低評価で



あるものの、両者の評価に 20 ポイント以上の乖離が見られた。保護者の評価が生徒のそれよりも 20 ポイント以上低く、生徒は保護者ほど自身の家庭学習のありように危機感を持っていないのではないかとと思われる。改めて生徒に家庭学習の習慣化の重要性を説くとともに、生徒が自身の家庭学習の様子を俯瞰できるような働きかけをしていきたい。「キャリア教育の推進」については、保護者は 68%の肯定的評価であるのに対し、生徒は 82%が肯定的評価をしており、両者間の評価に 15 ポイントの開きが見られた。生徒自身は、各学年で実施するキャリア教育についてその意義を理解し、有効であったと実感しているが、保護者には伝わっていなかったということがいえる。学校だより等を通じて、丁寧に周知を図ってきたい。

児童・保護者・教員の意識比較についての考察

・三者とも肯定意見が 80%以上の高評価であった項目は、「学習内容の定着」「体験学習の推進」「規範意識の醸成」「人権意識の醸成」「危機意識の確立」の5項目であり、これらの項目については、今年度の教育活動において概ね達成できたと考える。中でも「規範意識の醸成」は生徒、保護者、教員の三者の肯定意見が 90%以上であり、「体験学習の推進」「人権意識の醸成」は、教員が 100%、児童や保護者も9割を超える高評価であった。これらについては、今年度の北中の教育活動において十分に達成されたと思われる。また、「楽しい学校生活」「充実した学校生活」については三者にアンケート調査をしていないものの、二者が高評価をしている項目であり、これらの項目についても今年度の教育活動において概ね達成できたと思われる。

・評価に15%以上の乖離が見られたのは、「学習内容の定着」「家庭学習の習慣」「清掃活動を通じての環境整備」「心理的安全性の確保(教員)」4項目である。その内、保護者と教員の間には15%以上の乖離が見られるのは、「学習内容の定着」「心理的安全性の確保(教員)」の2項目である。いずれの項目も保護者の肯定意見は 80%以上であり高評価であるが、教員の肯定意見 100%には届かず、両者間の意識に少なからず隔たりが見られた。「心理的安全性の確保(教員)」については、生徒の肯定意見は 77%で保護者のそれよりも低く、教師との間に意識の差が生じていることが明らかとなった。二者面談を実施して生徒の心理面へ働きかけるなど、教員としては未然防止の生徒指導に努めているが、生徒は教師のさらな

る働きかけを期待しているともいえる。学校生活全般を通じて、全教職員で生徒の様子を丁寧にとり、即時対応していくことを心掛けていきたい。

・三者いずれもが低評価の項目はなかったが、生徒、保護者の二者の評価が低かったのは、「家庭学習の習慣」「読書習慣の確立」の2項目である。いずれも保護者の肯定意見は5割を満たさず、かなり低い評価となった。また、生徒も低評価であり、家庭における学習や読書の習慣が確立されていないことが浮き彫りとなった。適切な時間で家庭学習を行うという習慣を身に付けておくことは、生徒が上級学校へ進学した際に必要不可欠なことであり、今後、より一層、家庭と連携して習慣化を図っていきたい。読書は、想像力や思考力、判断力の育成に有効であり、その習慣化は是非とも図りたいところである。学校では、学校司書が図書館だよりを発行して読書への意欲付けを図ったり、図書委員がお薦めの本が入ったお楽しみ袋を用意するなどの取組を行ったりしている。家庭にも協力を仰いで、生徒の読書習慣の確立を目指していきたい。

R5年度末アンケート児童・保護者・教員の意識比較

	番号	項目	肯定意見	肯定意見	肯定意見	否定意見	否定意見	否定意見
			生徒%	保護者%	教員%	生徒%	保護者%	教員%
学習	1-①	学習内容の定着	89	80	100	11	20	0
	1-③	家庭学習の習慣	66	43		34	58	
	1-④	体験学習の推進	95	93	100	5	8	0
	1-⑤	ICTを活用した学習の推進	75	80		25	20	
	1-⑦	読書習慣の確立	50	43		50	58	
	1-⑨	キャリア教育の推進	82	68		18	33	
生活	2-①	規範意識の醸成	95	95	92	5	5	8
	2-②	人権意識の醸成	91	90	100	9	10	0
	2-③	教育活動への積極的参加	77	83		23	18	
	2-④	清掃活動を通じての環境整備	75	93		25	8	
健康安全	3-①	危機意識の確立	89	93	100	11	8	0
学校	4-①	楽しい学校生活	84	82.5		16.1	17.5	
	4-②	充実した学校生活	89	90		10.7	10	
	4-④	心理的安全の確保(教員)	77	85	100	23.2	15	0

肯定的意見の割合が90～100

肯定的意見の割合が80以上

消極的意見の割合が41以上

消極的意見の割合が31～40

消極的意見の割合が21～30

R5年度末アンケート 生徒 保護者 教員の肯定的意見の意識比較

